

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201366		
法人名	株式会社 フェニックス		
事業所名	グループホーム グレイス岩出		
所在地	和歌山県岩出市森259-1		
自己評価作成日	平成22年8月10日	評価結果市町村受理日	平成22年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3071201366&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成22年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様やご家族様のご要望やご意見を常に受けとめ、どのような場合でも従来の枠組みにとらわれず迅速かつ柔軟な対応を行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>既存の建物を改装してある為、自宅・アパートを思わせる建物である。2階に上がるホームエレベーターも施設の感じがなく生活感がある。職員の年齢層が幅広く、家族で生活しているような雰囲気があり、個々の入居者の意向に沿った生活ができるよう取り組んでいる。近くには神社があり、裏の方には田圃もあって散歩等にもすぐにでかけられる。グループホームのすぐ前は車道で危険な面もあるが、大型スーパーや飲食店等も近くにある為、出かけるのには便利である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りやスタッフ会議などで話し合い、理念についての共有を図っている。	ホーム内の随所に地域密着型サービスの基本理念を掲示して、いつでも確認できるようにしている。またスタッフ会議等で話し合い、職員1人1人が基本理念を意識し業務に取り組めるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物等で顔見知りになり、あたたかい言葉をいただいたり、入居者様からも積極的に挨拶をされます。	地域の自治会や祭り等への参加は行っていないが、近隣の畑や田んぼで出会った人には挨拶している。以前は小学校にぞうきんを縫って届けていたが現在は行っていない。	自治会に加入し職員が行事に参加することで、入居者も地域の一員であることを住民に知ってもらう事が望ましい。小学校等とのつながりも継続していくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不定期で地域のボランティアに来所いただき、認知症の理解と支援を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を職員全員が共有し、課題に取り組んでいる。	3カ月に1回開催されており、家族にも案内状を送り参加を求めている。家族、民生委員、区長、行政担当職員等が参加しているが夜間開催している為入居者は参加していない。	お茶出しを手伝ってもらうなど、少しの時間でもなんらかの形で入居者の参加が望まれる。また2カ月に1回の開催に向けての取り組みを進めていくことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様の対応困難な場合など相談し、意見を取り入れご本人のご希望に応じた対応方法を助言をいただいている。	運営推進会議への参加をとおして日頃の生活を知ってもらっている。対応困難な事例は地域包括支援センターや市の職員に相談するなど連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上安全を確保できない場合に限り玄関を施錠している。	建物の構造上、玄関のある1階部分が事務所と居室になっており、朝起きるとほとんどの人が2階部分で日中活動をおくっていることから、1階部分は職員の目が行き届きにくい。家族の希望もあり危機回避の為に玄関は施錠している。	玄関を出るとすぐ4メートル幅の道なので危機回避が困難な面はあるが、職員が事務所に居る間は施錠をしないで見守るなどの取り組みの実践が望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや会議などで話し合い、防止に努めている。今後研修があれば参加予定。		

【事業所名】グループホームグレイス岩出

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に権利擁護サービスを利用した入居者様1名おられ、全職員が理解している。 現在成年後見制度利用中の入居者様1名おられ、全職員に説明し今後勉強会を設け学んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人および家族に書面にて説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は平成21年4月26日開催以降は未開催。年内に開催し、家族様ご意見・ご要望をお聞きしたいと思います。	家族会は1年以上開催されていない。推進会議の会議録や情報紙、入居者の様子を毎月送っており事業所からの情報は伝えているが、家族からの要望が得られる機会は設けられていない。	家族に郵送物を送る際、無記名のアンケート用紙を同封するなど、家族からの要望を聞けるようにしていく事が望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議やミーティングにて随時意見や提案を聞き反映させている。	月1回スタッフ会議を開催していて、社長からパート職員までが参加している。その場では、全ての職員が意見を言いやすい状況になっており、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や取り組み・実績を十分に把握するように努め、それをもとに向上心をもって働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の実践力を身につけるために研修し職員全員が理解できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や連絡は以前から積極的に行っており、相互に感じたことを話し合う機会を絶えずもち、その活動を通して質の向上を図っている。		

【事業所名】グループホームグレイス岩出

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を取り除くよう、何事も共感しながら受け止め、本人の苦しんでいること求めていることを理解して、安心してもらうことによって関係作りを充実できるよう努力する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時にご家族の話をよく聞いて、不安なこと要望等について、話し合いながら信頼関係を築いていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に必要な支援を見極め、医療を含めその対応を進めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様に喜怒哀楽を共にするよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し、ご希望を伺い、連絡、話し合いをしっかりと行うことで関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう外出支援に努めています。生活環境を変えないよう気をつけております。	敬老会に出席して地区の人達と一緒に楽しめるよう支援している。近くの根来寺にドライブしたり、馴染みのある場所に食事にいたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに仲良く支えあえるよう、時には職員が間に入り、見守りによってより良い関係の支援を行っている。		

【事業所名】グループホームグレイス岩出

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	良い関係を断ち切らないようにその後も取り組んでいます。他の事業所に移られた方にも利用者と一緒に会いに行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の悩みや意向には絶えず耳を傾け話し相手になるように努めています。	意思表示が難しい入居者に対しても、表情を観察し、出来るだけ本人の意向を聞くようにしている。広告のお寿司が食べたいとの声に応じて外食したり、気分転換のミニドライブや近くの散歩等、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の暮らしや生活環境についてできるだけ把握するようにいろいろと話を聞きとりコミュニケーションの中から正しく知り理解するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の方の一日の生活の流れを把握してその人に一番適した取り組みを考えています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時々々の課題に対処しつつ起こった出来事をみんなと一緒に話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護をするように心掛けています。	以前の趣味等も考慮して、少しでも以前の暮らしに近づけることを中心に、本人、家族の意向や職員の意見を聞いて、ケアマネジャーがプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケース記録に記入し、共有した情報を基に改善点を見出し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調に配慮しながら可能な限りの地域の催し物の参加や外出希望など柔軟に行っている。		

【事業所名】グループホームグレイス岩出

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	過去の暮らしや生活環境について、本人とのコミュニケーションの中から正しく理解し把握するよう努めている。又、一人ひとりの生活リズムを把握し、その人に一番適した取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族が希望する主治医での受診を尊重し、心身状態を注意深く把握しながら受診の支援、往診を受けている。	個々のかかりつけ医の受診は家族にお願いしている。協力医療機関への受診は職員の同行を得られるので、かかりつけ医を変更するケースが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な方に特別指示書にて訪問看護を受けたり健康相談している。利用者様家族、看護師にも相談し助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は度々病院を訪問し、寂しさの無いように関わっている。又、早期退院に向け、主治医と相談を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望などを伺っている。日々、生き生きとした表情で過ごせるよう努めている。	ターミナルの対応については看護師が常駐していないので困難なところがある。ホームは人生の通過点的な場所であるとの認識で、入居者・家族と相談の上その都度対応している。	今はその場、その場で対応しているが、計画的に入居者や家族と話し合っておく体制づくりも望まれ、そのようなシステムの構築を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や心肺蘇生など職員全員が体調急変時の対応をスムーズに行う事ができるように、日頃からスタッフ会議や講習などで、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に入居者様を含めた避難訓練を実施しており災害時の避難場所も確保し避難時の安全などを考えた打ち合わせを入居者様と意見を交換しながら行っている。	夜間発生火災を想定した訓練を行うなど積極的に自主訓練を実施し、消防からの指導を仰いでいるが、職員全員が十分な避難方法を習得しているまでには至っていない。また、地域との協力体制はまだ築けていない。	区長や民生委員を通して地域の人達にグループホームがある事を伝え、地域の防災訓練に参加するなど、地域と共に取り組むことを視野に入れることを期待したい。

【事業所名】グループホームグレイス岩出

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大切にし、声の大きさや周りの環境に気配りするようにしている。ミーティングにて利用者のプライバシーを損ねない対応の徹底を図る。	情報紙の写真掲載などは家族に了解を取るようにしている。またトイレ介助時は大きな声をかけて誘導しないように職員同士で気をつけるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の要望に傾聴し、些細な事でも選択肢の提案を行い、自分で決める場面を作っている。意志決定が困難な方には、表情などの反応で把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にする。本人にとって大切な出来事を理解し、その人らしい生活を支える。希望をすぐに実行できない場合は、実行可能な日時を説明し、納得して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1~2カ月に1回、美容院に同行している。ご希望の方には当所で毛染めを行い、衣類はご本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じテーブルを囲み、楽しく、食事していただけるよう雰囲気作りも大切にしている。調理、盛り付け、配膳を入居者様と一緒にやっている。	昼食と夕食は職員も一緒に食卓を囲んでいるが朝食時は忙しく一緒に食事をしていない。盛り付けやすし飯を混ぜるなど一緒に食事準備をしているが、身体機能の低下もあり、下膳はほとんど職員が行っている。	機能の低下している人も調理の本を見て食事を選択したり、また、できるだけ職員と一緒に準備や片づけも行いながら食事を楽しめるような工夫を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の記録を行います。摂取不良が見られると、主治医に相談の上栄養剤を摂取して頂きます。水分補給に努め、ゼリーなども代用します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のほみがき、うがい、義歯洗浄、義歯の消毒等、入居者様の状況に合わせて声掛け、見守り、介助を行い口腔内の清潔保持に努めています。		

【事業所名】グループホームグレイス岩出

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、プライドに配慮した声掛け誘導をしている、行動を察知し、随時支援する。	入居者のサインや表情を観察しながら排泄時の行動を察知し随時支援している。また誘導時なるべく他の入居者に気付かれないように配慮した声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	テーブルにお茶の入ったやかんを常時置きいつでも飲めるようにしている、ラジオ体操やレクリエーションを取り入れ身体を動かすように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に曜日や時間を決めず、できるだけご希望を取り入れ、ゆっくり入浴して頂いている。入浴を嫌がられる場合は、時間をおいて再度声掛けする。	曜日を決めず週3回ほど入浴している。現在、9:00～11:00までと13:30～16:00までは自由に入浴できる。夜間帯の入浴は行っていないが、現在夜間の希望者は無い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、リビングでゆったりくつろいで頂き、その後居室へ誘導している、眠れない時は温かい飲み物を飲みながら会話するなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や臨時薬の対応は日誌や連絡ノートに記載し、全員が必ず確認し、把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野を生かして、ご本人のやる気を引き出し役割を分担して頂き、感謝の言葉を伝えている。外出や行事に参加して楽しみを持って頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば、その都度対応している。ご希望がない場合も積極的に声掛けし、ドライブや散歩を行っている。	買い物や外出等は入居者にまんべんなく声掛けをし、希望に添えるようにしている。外気浴や散歩など少しの時間でも出かけるようにしている。	

【事業所名】グループホームグレイス岩出

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を持っている人は、買い物時ご自分で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より希望があれば電話し、特変あればその都度連絡している。希望のない方も家族様へ月に一度、状態や行事について便りを送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節ごとに手作りの貼り絵や行事の写真飾ったり、植物を置いたりしている。ベランダには季節の野菜を植えて皆で育て収穫を楽しんでいる。	廊下や食堂もこじんまりしていて家庭的な雰囲気になっている。居室は1階部分でアパートで暮らしているような雰囲気である。また、らせん階段からの光も心地よい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は入居者様のほとんどがリビングで過ごされますが、一人になりたい時は居室に戻り休まれます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様全員に、使い慣れた物や好みの物をお持ち頂き、それぞれの思い出の品やご家族の写真、手作りの作品を飾っている。	ひと部屋ひと部屋、それぞれ本人の気に入ったものが持ちこまれている。部屋の大きさにも少しずつ違いがあり自分の部屋を意識しやすくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態にあわせて、必要な場所に手すりを付けたり、家具(ポータブルトイレ)の設置をしている。		